

放置される膨大な貧困

日本では生活保護を受けると最低生活費、家賃(実費)、介護保険料がでるほか、医療費や介護利用料が無料になり国民健康保険料も払わずにすみます。

都市部の一人暮らしの高齢者(60歳代)の場合、生活保護を受ければ月約8万円の生活費と、家賃が約5万4000円までです。

一方、生活保護を受けずに暮らす場合、医療費や保険料のしかかります。家賃が必要なら、月14万円の年金があっても、医療費や保険料を払う分、生活費は保護基準

生活保護引き下げは公平か?

を割り込みかねません。

苦しい低年金者

年金生活者のうち、国民(基礎)年金だけ(平均受給月額5万円)の人が813万人います。それに対し生活保護受給者は、高齢者以外も含めて215万人(12年)しかいません。膨大な数の低年金者が、生活保護を受けずに苦しい生活をしていきます。

「生活保護の人は楽しんでる」という声があがるゆえんです。

本来、低年金や、働いていても賃金が低い場合、最低生活費に足りない分を生活保護で受けられます。しかし多くの人が受けていません。なぜか…。



生活保護削減に抗議して座り込む人たち11日、国会前

ファミリーマンが失業手当が切れて、しばらく生活保護を受けたたくても、踏み切るのは簡単ではありません。「せめて葬式代を」とわずかな蓄えをもつ高齢者も受けられません。

バッシングが…

加えて、親族に扶養できないか照会されること、たびたび起きる生活保護バッシングなどがあいまって「恥」の意識がつくられ、ヨーロッパなどに比べ生活保護利用はきわめて低く抑えられています。

車は仕事や通勤などに欠かせない限り手放すよいういわれ、ローンの残っている家は原則、売却が必要で、家族のいるサ

用する世帯は14%しかありません。(11年度全国母子世帯調査)

日本で保護を受けている人は人口の1.68%(保護率、12年)なのに、研究者によればフランスやイギリスでは10~20%が受給しています。最低生活費以下の収入しかない世帯のうち生活保護を受けているのは日本では15%(07年)なのに、イギリスでは低所得就労世帯の約8割(09年)が公的扶助を受けています。

生活保護が受けにくくされ、膨大な貧困が放置されている。それが国民を分断しています。

(つづく)